

あ　る　淋　し　き　男

花　田　鐵　太　郎

髪分けてふくろふの笛ふく男はあはれ破れし戀をなくめり
嫁くといふ人の前にて正座法などして見する友はあはれ悲しも
蛇毒おそれしころは我もまたあどけなき子とたへられしか
むしろ死であれとおもへるこの宵のわかれをかざる優曇華の花
涙なき女はねたし憎ましむしろ間路にひとり泣きてむ
すてられしことさへ今は身のとがとあきらめし目に空はまぶしき
いつしかにほたるの戀の夜となりぬ濠端をゆくわれはもたせり

池　　上　　藤

春　野　晚　翠

池の面にかゝれる藤の下かけは紫ふかき波やたつ覽
思へともなを逢ふことは片糸のいつか解くらむ戀のみこれを

(寄糸戀)